

1. 本資料の目的・概要

1.1 本資料の目的

本資料は、道路環境影響評価に用いる自動車排出係数の算定根拠及び算定過程等を明らかにすることを目的とする。

1.2 本資料の概要

本資料の概要は以下のとおりである。

(1) シャシダイナモメータを用いた自動車排出ガス量測定試験

自動車排出係数の算定にあたり基礎データとなる自動車排出ガス量測定データを得るために実施した、シャシダイナモメータを用いた測定試験の概要及びその結果を整理した。

(2) 道路上における車種構成比等を把握するためのナンバープレート調査

自動車排出係数の算定にあたり基礎データとなる道路上における車種構成比及び平均半積載重量、年式別車両構成比データを得るために実施した、ナンバープレート調査の概要及びその結果を整理した。

(3) 自動車排出ガス規制推移とハイブリッド自動車排出ガス特性の整理・把握

自動車排出係数の算定において考慮する必要のある、自動車排出ガス規制の導入推移及びハイブリッド自動車の排出ガス特性を整理・把握した。

(4) 道路環境影響評価に用いる自動車排出係数の算定

道路事業の環境影響評価における自動車の走行に係る大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、一酸化炭素、二酸化硫黄）の予測に用いる自動車排出係数を算定するとともに、その算定根拠・過程等を整理した。自動車排出係数は平均速度別の原単位であり、適用範囲は平均旅行速度 20～110km/h である。また、道路環境影響評価の予測時期は概ね 20 年先であることから、2030 年次（平成 42 年次）の予測に用いることを前提に算定した。

(5) 中間年次における自動車排出係数の算定

道路環境影響評価に用いる自動車排出係数は、予測時期が概ね 20 年先であることから、2030 年（平成 42 年）時に適用することを前提に算定している。ここでは、現況（2010 年次）及び中間年次（2015 年次、2020 年次、2025 年次）における予測等に用いることが可能な自動車排出係数を算定するとともに、その算定根拠・過程等を整理した。

(6) 低速度域における自動車排出係数の算定

各種道路施策による渋滞緩和に伴う沿道大気質改善効果の検討等にあたっては、低速度域（平均旅行速度 5～20km/h）の範囲の自動車排出係数も必要となる。そこで、2006～2010 年度のシャシダイナモ測定データを用いて低速度域における排出係数比を整理した上で、これを用いて低速度域における自動車排出係数を算定するとともに、その算定根拠・過程等を整理した。

(7) 自動車走行時の二酸化炭素排出係数及び燃料消費率の算定

道路環境影響評価に用いる自動車排出係数の算定に必要な測定・調査データを活用し、自動車走行時の二酸化炭素排出係数及び燃料消費率（2010 年次）を算定するとともに、その算定根拠・過程等を整理した。